

2009 年度 小委員会活動成果報告

(2010 年 3 月 15 日作成)

小委員会名	集合住宅小委員会	主 査 名：福田 展淳 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学本委員会 (環境設計運営委員会)	委員長名：久野 覚 主 査 名：飯野 秋成
設 置 期 間	2006 年 4 月 ～ 2009 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>集合住宅の屋外及び屋内の環境工学分野での研究成果や知見を具体的な計画・設計に取り入れるための検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2006 年、設計・計画に行かせる環境工学的知見の抽出、文献収集 ・ 2007 年、出版物の検討 1：データ整理、執筆者、執筆依頼の検討、文章依頼、文章作成、研究協議会の準備・・・プライベート HP 上での検討、意見交換 ・ 2008 年、大会研究集会の開催、シンポジウムの準備、出版物の検討 2：編集作業、プライベート HP 上での検討、意見交換、パブリック HP での公開 ・ 2009 年、シンポジウムまたは研究協議会の開催、出版物の刊行の検討 ・ 2010～15 年 より詳細な公開可能な資料の精査、シンポジウム・出版物などの検討 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： なし 福田展淳 (主査/北九州市立大学)、隈裕子 (幹事/北九州市立大学)、平松友孝 (音・環境研究所)、高偉俊 (北九州市立大学)、尾崎明仁 (京都府立大学)、中島裕輔 (工学院大学)、山本洋史 (東京ガス)、吉田正 (オブザーバー/東京ガス)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2009 年度予算	150,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/kankyo/s2/houseWG/framepage.htm

項 目	自己評価	
委員会開催数	2 回 (年度内計画を含む、インターネットでの意見交換を除く)	
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	1. (書名)	
講習会	1. (名称)	参加者数 名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. (名称) (資料名)	参加者数 名
	2. (名称) (資料名)	参加者数 名
大会研究集会	1. (名称) (資料名)	参加者数 名
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 外断熱と内断熱の省エネルギーの観点からのコメント (文書作成済:検討中) 2. 外壁や屋上の塗料に関し断熱と遮熱を混同した表現が、一般広告等に見られるため、両者の違いの説明と設計者や住宅購入者が両者を混同しないように注意を喚起するコメント (検討中)	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 設計者等に伝えるべき必要度の高い環境工学分野の知見の検討 (70%) 2. 非公開 HP 上でのテーマの揭示と内容の検討 (60%) 3. 環境工学委員会への意見募集の案内の作成、提出準備 (60%)	

委員会活動の問題点・課題	1. 熱環境、音環境はある程度テーマが抽出できたが、光環境は、専門の委員が不在のため、テーマ・意見の募集をはかる必要がある。
--------------	--

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。

* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2008 年度 小委員会活動 自己評価

(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>昨年度検討事項を踏まえ、既存の論文を集めることで、集合住宅の環境学的知見がまとめられないかを検討した。</p> <p>昨年度の方針は以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットの活用の方針で委員の間で意見の一致が見られなかったが、不特定多数への掲示ではなく、内部での編集作業用としての活用という形でまとまった。 2. 現在の委員だけでは、まとまった環境工学的知見とならないため、公募を検討していたが、環境工学委員会への公募では、意見が集まりにくい場合や、意図と違った内容が集まった場合の対処等、問題が多いことが指摘され、既存の論文及び学会発表の中から、集合住宅に関する知見を集め、執筆者に、論文の内容を踏まえた項目を収集することとした。 (このため、以前行った、論文の再収集を行い、関連論文を分野毎に整理したために、時間を費やした。) <p>特に2に関し、本年度は、精査した既存の論文から、設計者・住宅購入者にとって必要な知見を取捨選択する議論を行う予定であったが、委員長の福田が、怪我のため進行できず、論文のリストづくりまで、活動がとまった状態である。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度

- D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。